

令和6年度 第2回住吉区地域福祉専門会議

令和6年10月31日（木）

【南保健福祉課長代理】 定刻になりましたので、令和6年度第2回地域福祉専門会議を開催いたします。

本日は、お忙しい中、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます住吉区役所保健福祉課課長代理の南と申します。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、開催に当たりまして、橘住吉区長からご挨拶申しあげます。

【橘区長】 皆様、こんばんは。本日も西田委員長をはじめ委員の皆様方、並びにアドバイザーの小野先生には、ご多用の中、また、遅い時間から当会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、平素は区政の各般にわたりましてご理解とご協力を賜り、厚くお礼申しあげます。

さらには、先週でございますけれども、土曜日には第50回すみよし区民まつり、そして、翌日には衆議院議員総選挙等がございました。委員の皆様にも、大変お力添えを賜ったところでもございます。無事終了できたということ、本当にうれしく思っております。皆様、本当にありがとうございます。

さて、当会議でございますけれども、6月開催時のときに、住吉区地域福祉ビジョンVer.3.0において重点的に取り組むべきことをテーマにグループワークを行いました。その中で、皆様から貴重なご意見を頂戴したところでもございます。

本日は、その際ご意見を賜りました「担い手不足の解消」と、「ゆるやかなつながりづくり」の効果的な取組みについてご議論をお願いすることとしてございます。その中で、皆様からいただくご意見というものは、今後ビジョンの実現に向けた取組みを着実に進めてまいり上で大変貴重なものとなることから、委員の皆様の忌憚のないご意見を頂戴したいというふうにも考えてございます。

本日、ちょっとまた限られた時間ではございますけれども、どうぞよろしくお願いたします。

【南保健福祉課長代理】 本日ご出席の委員さんにつきましては、名簿をお配りさせていただきますので、ご参照ください。

なお、濱本委員、三橋委員におかれましては、本日所用によりご欠席です。また、藤本委員、松岡委員、八牟禮委員、相良委員につきましては、少し遅れてのご出席となります。よろしく願いいたします。

アドバイザーとして、桃山学院大学の小野教授にもご参加いただいております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、会議を始めさせていただきますが、その前に皆様にお願いがございします。

議事録を残すために、ご発言いただく際にお名前をおっしゃっていただきますようお願いいたします。また、録音をさせていただきますので、マイクのご使用もお願いいたします。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、案件に入らせていただきます。

西田委員長に進行をお願いいたします。

【西田委員長】 西田でございます。本日もよろしくお願いしします。

それでは、次第に従いまして議事を進めてまいりたいと思います。

報告1の『住吉区地域福祉ビジョンVer. 3.0』の区民等への周知について」に移ってまいります。皆様方からのご意見につきましては、2番の「住吉区地域見守り支援システムの進捗状況について」、3番の「地域座談会の開催状況について」の説明が終わった後にまとめてお願いをいたします。4の「地域福祉実務者代表者会議の開催状況について」は、1から3の質疑の後に改めて時間を取りますので、よろしくお願いいたします。

それでは、事務局、説明をお願いします。

【増田地域福祉担当係長】 保健福祉課、増田です。私のほうから、1から3について報告をさせていただきます。座らせていただきます。

まず、資料1のほうをご覧いただきたいと思います。

第1回の専門会議でご承認いただいた「地域福祉ビジョンVer. 3.0」につきまして、区民等へ周知をしていくということで、専門職の方々へもということで、各種会議の場で「概要版」を配布して、要点について説明をしてきております。また、区民の方々にも広く知っていただくということで、区社協さんにもご協力をいただきまして、7月7日、社協フェスティバルの場でも「概要版」を配布しておりますし、10月5日の健康まつり・食育展、先日のすみよし区民まつりにおいても「概要版」を配布させていただいております。

こういった形で、「概要版」を用いてということではありますけれども、広く区民の方々にも知っていただけるようにということで配布をしているところであります。ホームペー

ジには6月10日からアップをさせていただいている状況です。

次に、2点目の「地域見守り支援システム進捗状況等」ということで、いつもの進捗状況表をつけさせていただいております。年に1度台帳を更新しております。昨年12月のシステム情報を抜き取って、本人に地域に情報を渡していいか意向確認をしたり、未回答者の民生委員訪問をしたりということを経まして、この10月に新規分確定をして台帳を更新しております。トータルでこの10月の台帳登載者としましては、対象者としては1万人弱、名簿には上がっておりますが、意向確認が取れて地域にお渡しをしている数としまして、表の左にあります現在の台帳登録者数ということで、5,334人分を地域にお渡ししました。10月の新規分としましては、真ん中より少し右にあります区内トータルで660人分が新規として上がったという形になっております。

それぞれの地域に台帳提供した日というのは裏面で、提供日、それぞれの地域活動協議会の運営委員会等に出向きまして、説明を加えながら台帳の交換をしてきたところであります。

また表面に戻っていただきまして、個別支援プランにつきましても順次作成を地域で依頼しております。右から2番目、現在トータル2,704名分の個別支援プランの作成に至っているところであります。令和8年度までに100%という目標の下、引き続き取り組んでいるところであります。

続きまして、「地域座談会の開催状況について」ということで、資料3でありますけれども、前回第1回の会議でも、今後の座談会を重点的に取り組んでいくということで、ご提案もさせていただいております。本年度4地域について開催をしていくということで、山之内地域につきましては8月20日に打合せをさせていただきまして、1月中旬に座談会を開催していくことで調整していくということで、また、コロナ禍での開催でありましたので、少し規模を縮小しているような形ですので、もう少し参加者の拡充を検討していくということ、12月10日に改めて打合せ会議を開きまして、詳細を詰めていく予定になっております。

新たに清水丘地域においても開催をしていくということで、地活協会長等の意向確認をまいっております。地域の多様な主体が集まる座談会も開催をしていくということですが、まずは頑張っている見守りボランティアの意見交換会から始めていけたらというふうに、会長のほうからの思いを告げられておりますので、その会長の意見も受けながら、今後さらに進めていけたらというふうに考えております。

新たに住吉地域につきましても座談会の開催をということで、地域の意向を確認しております。10月19日にハロウィンイベントというのを実施に向けて、いろいろと地域と検討を重ねていく中で、その振り返り会議を経て次年度の検討会議なんかには、座談会に類するとか、多様な主体を巻き込んだ実施をしていく中で、座談会につなげていくというような形で進めていけたらということになっております。

また、長居地域では平成30年度に開催をして、一定座談会から出た意見の中で、地域新聞の発行であったり、地域の花の選定であったりというようなところ、そういう取組みも生まれてきているところですが、さらに議論をしていくという話で継続扱いになっておったんですけれども、コロナの拡大で中止を余儀なくされておりました。コロナも収まってきた状況の中で改めて座談会開催ということで、地域の意向を確認させていただきまして、今後コアメンバーで打合せをしていくということで、9月19日の地活協の運営委員会においても今後座談会を開催していきますという提案もさせていただきまして、先ほど申しあげたコアメンバー会議で詳細を詰めていくという方向性の確認がされているところであります。

以上、私のほうから報告事項3点を報告させていただきます。よろしくお願いたします。

【西田委員長】 ありがとうございます。

ただいま事務局より説明がありました内容につきまして、皆様方、ご質問、ご意見いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、続きまして、報告4の地域福祉実務者代表者会議の開催状況について、事務局より説明をお願いします。

【小西保健福祉課長】 保健福祉課長の小西です。いつもお世話になっております。

私から、「住吉区地域福祉実務者代表者会議の開催状況について」ご説明をさせていただきます。

資料4と、それから、この会議の設置運営要綱、そして、つながり・みまもり・支えあいシステムの図、この3点をご参照いただければと思います。

まず、住吉区地域福祉実務者代表者会議という会議なんですけれども、これは住吉区独自に設置した会議でございます。その経過、いきさつでございますけれども、資料4のこれまでの経過をご参照いただきますと、平成28年度のこの地域福祉専門会議において、地域福祉ビジョンVer. 1.0を策定する議論の中で、当時の岩間アドバイザー、岩間先生を中

心に、地域から出てきた取組みを専門職がしっかりバックアップする、その地域を支えていく中で出てきた課題を受け止め、区レベルで検討が必要なことをしっかり検討できる場が必要であるという考え方が出されました。そしてまた、地域共生社会実現に向けて、地域、専門職、行政関係機関等が、障がい、高齢、子どもなどの制度・分野を超えて連携・協働するということが求められてきたということがありまして、それらから地域と専門職による連携や総合的な相談支援体制の充実事業（つながる場）における検討・議論から見えてきた課題を共有し、区レベルでの対応策を検討する場として、実務者代表者会議が位置づけられたということでございます。

先ほどのシステム図をご覧くださいますと、左から2つ目の列のところ、下のほうに専門職と区というふうに書かれているのですが、その点線の囲みの中に、真ん中に区実務者代表者会議という記載がございます。その周りには、例えば地域自立支援協議会でありますとか、高齢者障がい者虐待防止見守り連絡会議、地域包括支援センター運営協議会というような、もう既に皆様ご承知のような各分野ごとの専門職と地域の皆様方が集まって、それぞれの分野における状況と課題の把握ということで検討される会議というのがございます。

それらの会議でそれぞれ課題として上げられてきたものを共有する場として、実務者代表者会議というものを設置するという、そういうことでございます。

要綱をご覧くださいますと、目的として、住吉区における地域福祉の活動実践等から見えてきた課題を共有し、区レベルでの対応策を検討することなどにより、地域共生社会実現に向けた取組みの推進を目的とするということでございます。

具体の事務としましては5つございますが、主には1番の地域と専門職による連携から見えてきた課題の共有並びにその対応策の検討、もう1つが総合的な支援調整の場（つながる場）における検討・議論から見えてきた課題の共有並びにその対応策の検討ということでございます。つながる場というものは、資料4の裏面に説明を記載させていただいておりますので、またご参照いただければと思います。

会議の構成員は、先ほどの様々な会議体の中から、地域福祉に関連する職務に従事する実務者によって構成するというようにしております。

また資料4に戻っていただきまして、会議での議論内容につきましては地域福祉専門会議にも報告するとともに、区レベルでの対応策については具体化を図ることとしております。

平成28年度にそういう検討の場の必要性が認識されたということなのですが、その後、平成31年度に、先ほどのつながる場についての支援機関向けの説明会というのがありまして、その場で、この実務者代表者会議のプレ会議という位置づけをいたしまして認識共有を図ったのですが、その後、新型コロナの拡大等もありまして、正式な会議としては開催できていなかったということですが、いわゆる8050問題でありますとか、効率化の問題でありますとか、地域福祉の活動実践により様々な課題が顕在化してきたということもありますので、やはりこの会議の必要性が高まってきたということで、本会議を開催するに至ったという経過でございます。

第1回の会議を7月18日に開催いたしました。事務局として、事前に委員の皆様にご意見を求めたのですが、その中で、課題としてキーパーソン不在の人の支援について、またこれも裏面に説明を記載しておりますのでご参照いただければと思いますけれども、いわゆる身寄りのない方、支援者のいない方が、認知症などによってご自身で意思決定が困難になってきたと、そういった場合に金銭管理を誰が行うのかとか、そういうことが具体的に課題として上がってくるのですが、そういったキーパーソン不在の人の支援ということが、近年大きな課題としてクローズアップされております。

もう1つが支援機関連携における円滑な情報共有等についてということで、複合的な課題を抱える家庭、世帯というのがやはり増えてきておりますので、様々な支援機関がそこに関わっているわけですが、それぞれの支援機関が連携するための仕組みというか、基盤がなかなかないということで、なかなか円滑に情報共有ができていないというのも1つ課題として考えられるところであります。そういったことについて、委員の皆さんから出された意見を報告しまして、今年度優先的に取り組む課題として1番を採択いたしました。

その後、事務局として、1番に関わる国の動向、先行自治体の動向等について報告をいたしました。

ただ、短時間で会議を進めたということがありまして、委員の方から会議の進め方に関する指摘がありまして、会議終了後に主要な委員の方から個別に意見を伺う場を設けまして、いただいた意見を踏まえて内部でも協議を行って、今後の進め方については次のとおり整理を行っております。

裏面ご覧いただけますでしょうか。

まず1つは、会議の今後の進め方としまして、委員間の意見交換、情報共有を中心に会

議を進めていくこと。そして、方向性としましては、専門職の活動や関係機関の連携が一層円滑になるような取組みを会議での議論の積み重ねにより進めていくということを整理いたしました。

今後は、主要メンバーによるワーキング会議を開催しまして、上記の主旨目的等が委員全体に共有されるような具体的な取組みを検討していきたいというふうに考えております。

以上です。よろしくお願いします。

【西田委員長】 それでは、ただいまご説明がありました地域福祉実務者代表者会議の開催状況について、皆様方からご質問、ご意見をいただきたいと思いますが、いかがですか。専門職の方から、ご意見いただいていますか。

稲田さん、いかがですか。

【稲田委員】 すみません。区内地域包括支援センター連絡会の稲田でございます。

改めて、つながり・みまもり・支えあいシステムに合わせながら、この実務者代表者会議であったりとか、これまでの取組みのところのご説明もしていただいたようなところかなというふうに思っています。

いかんせん分野ごとで仕組みとかシステムが進んできているようなところを、横串を刺しながらという形で、専門職と区のところのこのシステム図のところにあるように、そこで1回コントロールを取って、区政会議を含めて上に上げていくようなところであったりとか、ここは反対に双方向の矢印があるように、地域と専門職のつながりの場もありましたけども、最終的に地域側のところの自由に意見が話し合えるような、これはまさしく座談会がイメージされている話合いの場なのかなというふうに、私もちょっと思っているようなところなんですけども、ここの座談会とリンクするような形で、何かうまいこと進めばなというふうにはちょっと思っているようなところなんですけども、事業のところできくと、どうしても見守りの支援システムの個別避難プランも含めてですけども、少し行政名簿を含めて地域側にお渡しするという、こういう仕組みがあるので、ここを中心にしながら座談会であったりとか地域の見守りの活動をどうしようかみたいなお話をされているような地域が多いのかなというふうに思いますけども、ここにそれ以外の子育てに関わるようなものであったりとか、障がいに関わるような方も合わさって意見交換ができるような広がりを持てればなという形で、最終的にどうしても横串を刺した後、住民側にフィードバックしていくところの矢印について、ほかの専門職もどこまで理解できているのかなというところは不確かなところがあるのかなと思いますので、非常に分かりやすく、地域

福祉ビジョンのところもこれだけのところで配布していただいたりとか、資料説明していただいているところだと思うんですけども、それぞれの事業を多分それぞれ上に上げていくというか、課題提出とか課題抽出するような動きが非常に強いのかなと思うんですけども、併せて住民側にフィードバックするという意識のところは、また逆に専門分野含めてですけども、分野間を超えたような形でフィードバックするような機会が持てたらなというふうに思いますので、それが何か福祉まつりなのか、各分野で地域側にフィードバックしようとするような取組みをされていると思いますので、その辺を少し一体的にできるようなものがあったらいいのかなというふうには思ったようなところでございます。

【西田委員長】 ありがとうございます。

宮川先生、いかがですか。

【宮川委員】 宮川です。つながり・みまもり・支えあいシステムの図ですけど、これは何回も見ることがあって、私もよく見ている図なんですけど、これを私はあまり分野別に見ていったらいけないなと思いつつ、分野別で見ていってしまったんですけど。そして、私は児童関係なので、児童関係は、この地域の児童関係は結構あるんだなという気はしたんです。でも、一方、地域と専門職というところの児童関係というのがあんまりないなというふうに感じました。

同じように障がいに関しても、地域のほうの障がいに関するような取組みというのがあまりなくて、これは色分けしていったら結構面白いんじゃないかなというふうに思いました。多分、児童関係は、この地域と専門職の部分が弱いんじゃないかなとか、障がい者関係は地域の部分がちょっと弱いんじゃないかなとか、何かそういうのが見えてくるんじゃないかなというふうに、ちょっと今、勝手に面白がって分けて見ていました。

以上です。

【西田委員長】 ありがとうございます。

ほか、ご意見ありますでしょうか。よろしいですか。

後ほどの会議の時間を取ったほうがいいと思うので、よろしいですか。

それじゃあ、私も少し1点だけ、宮川さんからも稲田さんからもお話があったと思うんですけども、この相互連携の矢印の部分をどうしていくのかというのが、恐らく1つ、地域福祉をやっていく上でポイントだと思うんですけど、今後の会議の進め方、委員間の意見交換、情報共有を中心に、会議の方向性としては、専門職の活動や関係機関の連携が一層円滑になるようにというところで、少し目的がずれているような気がするんですけども、

やっぱりこのままでいくと専門職という縦割り、地域と専門職みたいな縦割りの図になりかねないというか、地域と専門職をどうつないでいくの、それがつながる場という、いわゆる困難事例というくくりになっていると思うんですけど、多分つながる場だけでこれをしていくのは結構乱暴なような気がするので、日常的に相互連携を取っていける環境づくりに落とし込もうとすると、区全体で考えていくとシステムの無理が出てくるような気がするので、地域ごとであるとか小地域という形の連携の模索というのは恐らくしていかないといけないと思うので、今はどちらかという区全体の地域福祉という捉え方になっているんですけども、多分住民サイドからいくと、小地域という面の捉え方でつながりをつくっていくという部分まで丁寧にやっていかないといけないかなと思うんですけども、そう考えると、専門職の地域福祉に関しての教育がまだ進んでいないような気がするんですよ、専門職側が。

やっぱり縦割りというイメージ、それぞれの専門領域という部分が、恐らく専門職なんてスペシャリストという意味になるので、そこは一個、どう担保していくのかということだと思いますので、ちょっとその会議の方向性として、目的のところと、地域側とつながっていくということを意識的に専門職がやっていかないといけないのではないかなというふうに思うので、その内容がちょっと含まれていないような気がするので、どちらかという児童と障がいと高齢の専門職のつながりをつくるみたいなニュアンスに捉えられてしまうと、そこはそこで方向性として違うのかなというふうに思いますので、あくまでも小地域の中でそれぞれの分野ごとが連携を取りながら、住民と一緒に福祉課題を解決していくということの枠組みだと思いますので、そこが少し気になりましたので、コメントさせていただきます。

それでは、議事に移ってまいりたいと思いますので、議事について事務局より説明をお願いいたします。

【中濱地域福祉担当課長代理】 保健福祉課の中濱です。議事の「担い手不足の解消」と「ゆるやかなつながりづくり」の効果的な取組みについて、座って説明をさせていただきます。

資料につきましては、後ろから2枚目の資料5-1をご覧ください。先日、会議資料を郵送させていただいたときの案内文の裏面とほぼ同内容となっておりますが、いま一度ご覧いただけますでしょうか。

前回の第1回の専門会議におきまして、地域福祉ビジョンVer. 3.0の重点的に取り組む

べきことにつきまして、2班に分かれてご議論いただきました。その結果、A班においては「担い手不足の解消」、B班においては「ゆるやかなつながりづくり」を主なテーマにご意見をいただきました。

この2つのテーマは、これまで専門会議でも問題意識を持ってご議論いただいた内容ですが、今回はさらに踏み込んで、その具体化に向けた効果的な取組みについてご議論いただきたいと考えております。

事務局としての今後の方向性としましては、本日の会議でのご議論を踏まえて実施素案を作成し、来年2月に開催予定の第3回専門会議で内容の豊富化を図り、来年度できることから実施案の具体化に取組みたいと考えております。

そして、ビジョンVer. 3.0の計画期間が令和9年3月までとなっておりますので、この計画期間内に実施結果を報告書などにまとめて、各地域へ広げていきたいと考えております。

本日、委員の皆様をお願いしたいことですが、こんな取組みがあったらいいなであるとか、こうしていけば担い手が集まるのでは、私の地域では既にこんな取組みで担い手が増えた、地域にはこんなゆるやかなつながりがあるなどといった、いろんなご意見をいただきたいと思っております。

例えばとしまして、登下校時の子どもの見守り活動のような日常の活動を意識的に行うことで地域福祉につながるような取組みや、本年3月に開催されました、「ごちゃまぜスポーツ大会」のような、子どもから高齢者まで、障がいがあっても誰でも参加できるような取組みや、仮称ですが「居場所サミットin住吉」のような地域の中に様々な主体による居場所あるいは出会いの場が自然に生まれるような取組みの3件を挙げております。

この「例えば」のような取組みでも構いませんし、もちろん違う取組みでも構いませんので、「担い手不足の解消」と「ゆるやかなつながりづくり」の課題に対する効果的な取組みにつきまして、ご議論をお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

【西田委員長】 事務局より説明がありましたが、議論をスムーズに進めるために、ここで小野先生よりコメントをお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

【小野教授】 皆さん、こんばんは。よろしくお願いたします。

今のこの前段で、先ほど「つながり・みまもり・支えあいシステム」、皆さんちょっとご覧になって、委員長からも、皆さんからもご発言あったんですけど、今回のここでの話合いのこちらのほうの議事は、「担い手不足の解消」とか、「ゆるやかなつながりづくり」の

効果的な取組みということなんですけど、何でそれが必要なのかみたいところは共有しておきたいなと思っていて、実は先ほどの「つながり・みまもり・支えあいシステム」もそうですけど、だから、こういう地域福祉をやりたいんだというのはもともとあったんです。思い出しましたが、昔、岩間先生なんかとやったときの話、大分前の、最初の頃ですよ。

一番重要なのが地域レベルであって、その地域レベルのところで住民の人たちと関わり合いながら、そこで専門職とかが一緒になって活動していくイメージをどうできるのか。そこで難しい問題を、さらにもうちょっと上の専門職レベル、区レベルでサポートしているのかみたいなところもあって、だから先ほどの話でいうと、ボトムアップの部分とフィードバックの部分、両方必要になるんですけども、このイメージをしっかりとつくるために、実際これをやろうと思ったら、実は担い手不足というのは1つの手段ですものね。担い手不足が解消することが目的ではなくて、こういう地域福祉をやるために、もっといろんな人に関わってほしいんだ、みたいなところが、そこをメッセージ出さないと、担い手のための担い手になっちゃうので、そのあたりは少し皆さん頭を柔らかくしていただいて、こういうのをやるのにこんな人たちが関わってくれたらいいなみたいな形のイメージがまずは必要なんだろうなということは思います。

「ゆるやかなつながりづくり」のほうについては、これはつながりづくりだけでも十分目的にはなると思うんですけども、これも単につながっていればいいという話じゃなくて、そのつながりの中で、それこそ住吉に住んでよかったなというような、思えるような、そういう実感が湧いてくるようなつながりをどうやったら生み出せるんだろうというのが1つポイントで、前回のところなんかにもありましたけど、これまでも例えば地域には自治会のつながりとか近所のつながりとかもありました。でも、大阪の都市部である住吉だと、それだけのつながりの中で、実際に町内会に入っている人たちが恐らく半分ぐらいな感じですね。つながってほしい人は逆に入っていないような形になっているというのが現状かと思います。

ですから、町内会、自治会自体もしっかりとさらに発展させていくことが必要なんですけど、同時にそこだけではない新しいつながりも両方見据えながらつくっていくことが必要で、そういうつながりの中で、ここの地域で暮らしていくことのよさが分かるような、そんなつながりがどんなふうにしたらできるんだろうということがすごく大切なんだろうなというふうに思っています。

ということはこの2つ、それぞれのテーマではあるんですけども、めざす方向は基本、先ほどあった本当に地域でそれぞれの人がその人らしく暮らしていくために地域福祉を進めていきたいんですけど、そこでこんな人たちにもっと関わってほしいですか、こんなつながりがあったらいいよねというあたりの、担い手不足だとかつながりが必要だというのは、これは実は30年ぐらい前からずっと言っているテーマですものね。いきなり新しいアイデアというのはなかなか難しいのかもしれませんが、ここまでいろいろ煮詰めてきていますので、できるだけ頭を柔軟にさせていただいて、先ほどあったような3つぐらいの例もありましたけれども、まずはその地域のところを見ていただいて、こんなふうなことができたらいいとか、こういうものがあつたらいいというところが出てくるかと思います。先ほど紹介があつた地域での地域座談会を、本来であれば、順調にいったら、コロナがなければ全地域で実施して、例えばその地域の中でこんな課題があるよと座談会の中で話し合うんですけど、そこに専門職の人と一緒にいてもらいながら、じゃあこの課題どうしようねというのを話し合っていて、さらにはこういう地域にしたいねということで、これは地域の取組みとして、例えば居場所づくりなんかをそこで一緒にやっていくというような、そういうような形になると、地域レベルの、いわゆる地域レベルのところと、それを支える専門職、さらにそれをバックアップする区というところが、全体がつながり合っていて連動していくという、そういうイメージがもともとあつたんだと思いますし、それが一周回って今ちょうどまたそこを考え出す、そういう時期になってきたんだということだと思っています。

ですので、焦点をどこに置くかは皆さんの関心であっていいと思うんですけども、最低限その地域のところは少し意識していただいて、それをやるために専門職がどんなつながりが必要なのかというところは出てくるのかもしれませんが、と同時に、区はどういうバックアップが必要なんだというようなことを考えていくような、そんな感じのイメージが持てればいいなと思っているので、かなり昔の話ですけど、例えば大分県で一村一品運動というのをやったわけですよ。大分県、もうそれは三、四十年前の話ですけど、やっぱり特色がなかなかない。でも、それぞれの地域の特色をつくろうよということで、1つのそれぞれの村で、うちの村はこれだぞという、そういう特色を掲げながら、それぞれ特色ある地域づくりに向かっていったという、そういう地域おこしというのは、かつてありました。

まさに地域座談会なんかでやろうとしているのはそんな感じで、それぞれの地域でそれ

それぞれの特徴がありますから、そういうのを生かして、その中で住民の人たちと専門職が一緒につながって地域の特色を生み出せるような、そんな地域福祉をやっていくと。それはあくまでも、もちろん何て言いますか、様々な地域の深刻な課題が当然ありますけれども、そういうものも取り組みながら、同時に地域のよさも引き出していけるような、そんな発想が専門職のほうも、先ほど委員長が、専門職のほうこそ地域福祉の発想が必要だというのはそのあたりになってくると思いますので、専門職の方が持たれている知見とか技術を地域のためにも還元していくみたいなことが、そういう話合いの中でできればいいなというのは思いますし、個人的には、本当にまず地域座談会を全地域でうまく取り入れて、その中に専門職が関わっていくようなイメージがあって、それをみんなで支えていくというサポートができればいいなという、そんなイメージはあるんですけども、皆さんは皆さんの立場でいろいろ新しいアイデアを出していただいていると思いますので、先ほどありましたように今までどうせできてこなかったもので、ここでぽっとできるというのはなかなか難しいんですけど、できるだけ柔軟に考えていくことで、こういうのをできるかもねというのが始まっていくんだと思います。

そのために、これまでのこの専門会議も積み重ねてきたところがあると思いますので、ぜひ少しでも、半歩でも今の状況が進んでいくような、そのぐらいのところを皆さんと一緒に考え合っていければいいのかなというふうに思います。

委員長にお返ししますので、よろしくお願いします。

【西田委員長】 ありがとうございます。

今、小野先生のほうから、今までの福祉専門k会議でお話しされている方向性であるとか課題認識等について整理をしていただいて、前回皆さん方とグループワークをした中で出てきた「担い手不足の解消」と「ゆるやかなつながりづくり」ということで、5-1の資料にも書かれていますように、どれだけグループワークをしてきたんだという話です。ですので、もうどんなことからでもいいので進んでいかないと、この会議をやるのが目的になってしまいますので、少しでも前へ進めていくということで、さらに踏み込んだ具体的案を皆さんで考えていきたいなというふうに思いますし、これをまた次年度反映させていただけるということですので、少しでも有意義な議論をしていきたいなと思うんですけども、今から1人ずつ振ってアイデアが出るとも思わないので。

【山下委員】 ちょっと言いましょうか、僕。

【西田委員長】 そうですね。じゃあ先に。

【山下委員】 言われるまでに先に、早い者勝ちで。すみません、区社協の山下でございます。

今、委員長おっしゃったことはまさにそのとおりだと思います。まず、「担い手不足の解消」ということを、日頃からそんなに気にはしてないんですけど、いざ自分が先頭に立ったときに、後についてきてくれる者が何人おるかなと思ったら、ちょっと心寒くなるような状態で、なかなか育っていないのが実情でございます。

私が思いますのは、地域の住民の中から地域福祉に関心を持っていただける方が、個人、法人問わず必ず存在していると思うんですよ。そういう方たちをどうやって表面に引きずり出すかという、表に出すかということをもっと考えたいと思っていて、今回山之内でやっております楽しみスマイル号というバスの運営に関しましても、それを実施することによって利用してもらえる方々、高齢者の方々のみならず、あれは何やねんという感じで関心を持っていただいて、それだったらちょっと介助添乗のお世話でもしてやろうかという人も出てくるというふうな感じで、まずは地域のほうからそういう方々を、関心を持っていただくような何か行事を用意というか、行動を取ったら一番いいんじゃないかなと、そういうふうに思っております。

そして、「ゆるやかなつながりづくり」ですけども、あまり、とって大層なことばかり考えていたら何もできないので、簡単にできるようなこと、いわゆる地域でやるお祭りに関しても、実行する主催者側だけのスタッフだけでやるんじゃなくて、各施設の方々を1人でも多く、施設を経営なさっている方々ですけども、デイサービスに関わらず、老人ホーム、特養いろいろ含めてのことなんですけど、そういう方たちもぜひ参画してもらおう。

そしてまた、私のところでやっております地域座談会のメンバーも、現状のメンバーにプラス、もっと関心を持っていただきたい人をたくさん座談会メンバーに入れたいということで、今考えているのが施設連絡会に入っていない、加入されていないような小さな施設の方とか、そういう方たちも今回お集まりいただいて、山之内の地域福祉施設の事業所、並びに地域コミュニティーといいますか、そういうことをやりたいなと思っておりますので、具体的には委員長おっしゃるように、何かしゃべるようにということでしたので具体的に、具体化に資するか分かりませんが、そういうことを感じたので申しあげておきます。すみません、よろしくお願ひします。

【西田委員長】 ありがとうございます。

具体的過ぎるほうがいいと思いますので。今、山下委員からは、どちらかというと専門

職を積極的に巻き込んでいくというか、そういう法人側にもっと地域のほうへ参画してもらおうというアイデアがあったかなというふうに思いますので、1人ずつ回っていくか、どうしましょう。なかなか言いにくいようなので、今から20分ぐらい、20分か30分ぐらいちょっと両隣でこのアイデアを話していただきたいなと思っているんです。

そのほうがしゃべりやすいかなと思いますので、それを付箋に書いていただいて、出たアイデアをまた発表していただく。1人で発表するより2人で発表したほうが心強いかなと思いますので、そういう時間を少し取りたいなと思いますので、こんばんはから始めていただければと思います。よろしくをお願いします。

(ペアワーク)

【西田委員長】 結構出ましたので、ちょっと早いんですけど、しゃべり疲れたということで、終わるんだったら早く終わったほうがいいということなので、発表していただきたいなと思うんですけども、貼っていきますか。どうしますか。貼っていきましようか。ホワイトボードに貼ってくれはると思うので。後で多分、事務局まとめはるので、私は貼ったほうがいいと思うので。

それじゃあ、そちらから。山下会長、宮川さん。説明してもらって、あとは貼ってもらったらいと思うので、事務局、貼ってもらっていいですか。

【宮川委員】 担い手不足というところで、長期的に考えてやる方法と、中期的にとというのがあまり思い浮かばなかったんですけど、あと、短期的にやっていける方法というのが出てきました。

まず、短期的にやっていける方法として、子ども見守り隊というのがあって、これが高齢化が進んでいて、それでだんだん担い手が少なくなってきているんだけど、子ども見守り隊の減少、担い手というところだけ特化してちょっと考えると、「こども110番の家」という旗があるんです。これも何年前、何十年前からあるのかちょっと分からないんですけど、これがちょっと形骸化しているというか、本当にこども110番の家があっても、110番の家の担い手として機能しているかといったら、ちょっとあまり機能してないんじゃないかなというところで、もう1回メンバーを見直して行って、110番の旗をやってくれる人を新たに組織化して、それで1回会議とか設けて、地域の担い手ということでお願いしてはどうだろうかというのが、まず短期的でやるやつ。

あともう1つ短期的な部分で、子どもたちが地域に根差す目的を担っていくというところの、何というんですか、植え付けるというか、そういうところで中学生を、前に土曜授

業なんかで総合防災訓練に参加するとかいうのがあったんだけど、学校側の判断もあるんでしょうけど、これがなかなか参加というのがやっていないというところもあるので、やっているところもあるんですよ、でも、これを全区で推し進めていってはどうかと。非常時のときに役に立つのは、東日本のときもそうだったんですけど、中学生が結構活躍したというところもあるので、そういう中学生にも地域に出て活動する場をつくっていったらどうかというふうなところが1つですね。

あとは、私自身ちょっと大阪府の南部のほうで、ある事案があってその専門委員をちょっとやっている関係があって、その地域はだんじりでつながっているんです。だから、だんじりという祭りがあって、青年団に入って、それで、そこで活躍して子どもも活躍して、だんだん成長して行って地域が好きになっていくというようなところになるんだけど、これを住吉区に持ってくるのは非常に難しいなというふうなところはあるんだけど、さっきの中学生の件を含むんだけど、何かその地域で活躍できる場というのがやはり必要じゃないかなと。小さい頃からこういう子どもが育っていく中で、中学生、高校生となっていくにつれて地域と切れていく、だんだん切れていく。そうなってくると、もう大人になったら地域って何なのというふうになってしまうので、それを何とかつなぎ止めていくような方法を考えていってはどうかと。

これは手前みそで申し訳ないんですけど、うちでやっているのは「子どもが食堂」というのをやっていて、子どもが「子ども食堂」をやるというんです。そしたら、地域の方も来て、子どもが接待をして、クリームシチューやカレーとかを作って出して、もちろんそこに参加するのはお年寄りとか子どもも来るし、いろんな方が集まれるような場をつくっているというようなところですよ。これも長期的に見てという感じになると思います。

それと、あと、子どものほうから先に行きますと、子ども同士のつながりというのが、どうも学校だけになっていないかなというところが懸念されます。ですので、地域でつながる子どもの関係というのもあってもいいんじゃないのというところもあって、それで地域でもつながりができるような場をつくりたいなというような、具体的な案は出ていないんですけど、そういう考え方でやっていったらどうかということですね。

あと、最後に、各地域でいろいろお願い、地域活動をお願いするんだけど、いきなり役員やってとか、こんな仕事をあれやってとかいうのは結構難しいので、でも、それでも、例えば掲示板貼りからやってとか、そういうような小さいことからお願いして、徐々に巻き込んでいくというようなことを考えました。

以上です。ありがとうございます。

【西田委員長】 ありがとうございます。

結構説明が長くなるので、早く始めてよかったです。

松岡委員と藤本委員に行きます。

【藤本委員】 藤本です。よろしくお願いします。

横のグループとかぶるところもあるんですけども、私たちのグループは、2人は、「子ども食堂」の数が住吉区で数年前、最初に比べたら倍以上になっているんですよ。それはすごい担い手だと思っていて、「子ども食堂」がすごくゆるやかなつながりを生んでいるんじゃないかということもあって、何をしたらいいかというのは、最近始めた人に聞いてみてはどうかと。何でやり始めたんですかというところが何も制度にも乗っかっていないし、何の報酬も出ない。だけど、やりたいがためにやってはる人が多い中で増えてきています。

そこに来ている子どもたちも、高齢者も、いろんな人たちがそこに集っているということもあって、実際に何でやり始めたのかとか、何でここに来るんですかみたいなことを実際参加者、やっている担い手から話を聞いていって、それを自分たちの地域で実現できるんだったらやっていくみたいなことがいいんじゃないかということとか。

あとは私たちの住吉の地域では、子どもの居場所を週3回やっていて、学習支援もやっているんですけども、担い手でいきますと、もともと小学校で「子ども食堂」とか子どもの居場所に来ていた子たちが今、高校生、大学生、社会人になって、ボランティアとして戻ってきてくれているんですよ。それで大半助かっているんです。8人ぐらい戻ってきてくれている、今、子どもの居場所自体、子どもたちが140人ぐらい来るんですよ。でも、子どもたちを見切れないんですよ。

だから、ボランティアのそういう、一緒に遊んでやとか、子どもたちの勉強を見たって、音読を聞いたってみたいところから、それぐらいやったらできるかなみたいなので来てくれるということがあるので、何をして、手伝ってというんじゃなくて、具体的にこういうことをしてほしいとか、それがすごくステップが少ないとかハードルが低いものを言っていくということが大事かなと思っていて、もう一方で私、地域喫茶もやっているんですけど、そこでコーヒーを入れてくれたりとかコロッケを揚げてくれたりとか、いろんな軽食を作ってくれる人たちは、一番最初に声をかけたときは、「私、何もできひんねんけど」と言われるんですよ。だけど、「私、コロッケ揚げられないんです」とか、「私、コ

「一ヒ一入れられないんですよ」と言ったら、「コーヒーぐらいやったら毎朝入れているから、それぐらいだったらできるかな」とかということで皆さん手伝ってきてくれて、年間400人ぐらい手伝ってくれるんですよ。そういう小っちゃな、「私できへんねんけど、ここら辺できる人いない？」みたいな声かけとか一本釣りとかということ、すごい大事なかなと思っています。

でも、一本釣りするにはつながることが大事なので、「あそこに誰々さん、できる人いるよ」とかというのをキャッチしながら、手伝ってくれませんかと言いに言ったりとかするんですけど、そういうことも大事なかなと思っています。

言われているほうは、自分としてはこんなことしかできないと思っている人がすごく多いんですよ。でも、そのことってすごく、地域にとってはすごい大事なことがたくさんあるかなと思っています。

あとは、担う人も支援される人も選択肢がたくさんあること、地域の中に選択肢がたくさんあることが大事なかなという話をしている、このこの人にだったら言えるけど、この場では言えないとかということもすごくたくさんあると思うんですよ。そういういろんな人がいろんな選択をする場が地域の中でたくさんある、それがクローズであったりオープンであったり、いろんなグラデーションが地域の中であることがすごく大事だなと思っています。

なので、地域を分けない、高齢だからとか、子どもだからみたいな、だから子どもの居場所と言っても、いろんな人が来てもいい場所にしていくであったりとか、この週はこの居場所がある、この週はここに自分の居場所があるみたいな、週ごとの居場所でもいいんですけど、いろんな選択肢が地域の中にあるということが大事なかなという話になりました。ありがとうございました。

【西田委員長】 ありがとうございます。

それでは、稲田さんのグループ、お願いします。

【稲田委員】 すみません。端的に2つちょっとテーマを絞ってということで、先ほど来担い手もそうですけども、つながりづくりイコール担い手の不足の解消にもつながってくるのかなというところで、地域の活動者と、いわゆる専門職とつなげるというところは1つ大きなテーマとしてありかなというところがあって、じゃあ何を目的にしてそこができるかなというところで少し話はしていたんですけども、ちょっとタイミングはタイミングだと思うんですけども、見守りの支援システムを含めて災害時のところの安否確認か

らスタートしているというところでテーマがあると思うんですけども、多分、高齢分野だけではないのかなと思うんですけども、福祉サービス事業者についても、事業者も災害時、有事のときに、自分自身の福祉サービスをいかにして事業継続できるのか、立ち上げていくのかというのは、しっかり計画立てなさいよという形に今なっているようなところですよ。

計画を立てるときに、あくまで事業継続をするためには、まずはどこでもそうだと思うんですけども、利用者含めての安否確認、安全確認というのがスタートしていくというところになりますので、例えば今、要援護者名簿にしても、同じように支援者で、例えばこれでいくと介護保険のサービスを使ってはるような方でいくと、ケアマネジャーさんがいたりとか、そんなところで情報共有はされていると思うんですけども、もしかすると同じ利用者とか同じ対象者の方に、高齢の地域の側も見守りの支援でももちろん安否確認に走ったりとか、福祉専門職は福祉専門職で安否確認の対応をどうしたらいいのかなみたいなところで、今悩んでいるところが一番大きな焦点としてあるのかなと思うので、一度その辺の、こんなやり方ってできるよねみたいなところを少し専門職と地域側とで話ができるようなきっかけも、1つの対策というか活動のきっかけになるのかなというふうに思うので、その辺でいくと専門職も食いついてくると言ったらあれですけども、自分のところだけではそんなの絶対、全員の対象者とか利用者だなんてどうしたらいいねんというのが多分、現実だと思うので、そこは逆に、事前にそういう話合いができるような場があると情報の共有ができるのかなというところで1つ思っているところです。

もう1つは、活動の若者というか、どうしても担い手のところでいくと、何かテーマでいくと高齢者向けとかそんなところになりがちなところもあるので、若者の参画が気軽にできるようなものが何かできないかなということで、宮川委員もおっしゃっていたように、中学校の施設とか、そんなところの活用が一番キーポイントになるのかなというふうな話もしていましたので、気軽にできるような、参画できるようなイベントとか、その参画をするんじゃなくて企画自体を中学生ができるようなものでいくと、よく区役所の1階の廊下を通っているとセレッソ大阪の旗が立っていたりとか、レッドハリケーンズのドコモの旗が立っていたりとか、いろんなところでプロスポーツとか地域のイベントでも来ていただいているのかなというふうに思うので、少し何か幾つかの、体育館の中の卓球のイベントとか、それぞれの専門職というかプロスポーツの人にも来ていただいて、自由に参画できるようなイベントを中学校の拠点でやってみるみたいなところと、そこの企画運営を中

学生にも入っていただいて運営をしていただくみたいなどころからやっていくと、今言ったようにもともとの活動者が大きくなって、もともとの地元で活動者として帰ってきていただく、この順繰りができれば一番いいのかなというふうに思うので。

よく私も地域団体とか地元の自分の住んでいる地域で、同じようにクラブ活動をしていると、小学生、中学生になって、卒業して、高校、大学、社会人になって、ある程度になって、自分の子どもを連れてまた同じスポーツのところにコーチとして戻ってきてもらえる、この一順繰りつくまでが大変やなという形でいつもやり取りをしていることがあるので、そんな形のサイクルが1つのきっかけになればなというふうに思うので。中学生とか中学校の施設というのは1つのポイントになるのかなという話をしていたところです。

【西田委員長】 ありがとうございます。

では、最後ですけども、こちらもやっぱりお話をする中で、つながりは実はあるんやと。でも、継続しない、持続しない。地域活動をされている地域住民の方が、つながりとかその取組みが切れてしまう要因として、不安になるとか、子育てサロンをやっているけどもどうアドバイスしていいかわからないとか、そんなときに専門職が寄り添ってもらえたら、それだけで活動が持続していくとか。役所に個人情報で不安な人がいるから、この人を見てほしいとかいって投げても、フィードバックがない。多分、個人情報の壁なんだろうと。

何でこっち側が個人情報を提供しているのに、そちら側から個人情報が返ってこないのかみたいところで、せっかくやっている地域の取組みが、相互関係が築けないがゆえに活動のモチベーションが下がっていったりとかというところで、専門職がきちっとそこに介在してもらおうというのはすごくありがたいというお話がありました。

それから、地域の中で様々なコミュニティーがあって、コミュニティーが潰れていっている。それは担い手不足というよりも、孤立してしまっている、そのコミュニティーが、取組み自体が。ですので、やはりコミュニティー同士、いわゆる「子ども食堂」だったら子ども食堂間の連絡会というよりも、そのコミュニティー同士が協働し、そしてまた変容していくみたいな仕掛けとか、その組織化を固定化させないみたいなイメージですけども、そう考えると、住吉区内にあるものすごい多分、今の「子ども食堂」の話ともつながりますけども、実はむちゃくちゃ多い、つながっているそれぞれのコミュニティーが。それが出会う場所であるとか一堂に集まる、それが多分お祭りという発想になるのかも分からないんですけど、そのお祭りを大学生がプロジェクトで年に1回、区民まつりを学生

がプロジェクトでやるとか、そういうような仕掛けをしていくということが、学生は学生で社会課題を解決するための事業がすごく増えてきている。

じゃあ、その社会課題を解決する1つのアプローチとして、区政が用意をするというようなフィールドをつくることで、そこに人が集まり、そして企画をし、楽しいお祭りにしていくみたいな道筋をつくることで、1つのお祭りとして定着するんじゃないかなというのは、話の中でありました。

あとは社会福祉法人だけじゃないですけど、介護を事業としている人は、恐らく地域雇用だと思うんです。じゃあ、地域雇用をやっているのに。実際自分の住んでいる地域について全然知らないみたいな状況があるので、逆に言うと、地域活動残業を介護保険事業所とかは出すようにしたらどうかなと。多分、専従要件とかいろいろあると思うんですけど、地域活動するときには残業代出しますよみたいなことをやると、もうちょっとわくわくしながら仕事できるのと違うかみたいなことは、ちょっと話が上がってありました。

以上、ちょっと具体的になってきたんじゃないですか。そんなことないですか。これ以上具体化していくとなると、恐らく事務局は誰が担うみたいな話とか、ここから生々しい話になってくるので、それは次に進めていっていただきたいなというふうに思いますが、以上でよろしいですか。

それを踏まえて小野先生、少しコメントいただければと思います。

【小野教授】 コメントというより、だからもう出てきましたね。ぜひここまで出たらやるしかないというのが。もうこれはまず、区にボールは投げられたようなものですから、かなり具体的なイメージも出ていたと思いますし、もっとバリエーションもつけられそうな感じで組合せができそうな感じもしていたので、何かこれを聞きながらも本当にいろんなアイデア出てきましたものね。

先ほどの実はできませんというのも、役割があればそれならできるよみたいな感じというのはすごくいいイメージだと思いますし、今は社会貢献の時代なので、個人にせよ商店とか会社にせよ、何かやりたいと思う人たちもいないわけじゃないと思うんです。新しい潜在化している人たち。だから、本当に商店とか会社なんかには社会貢献のお誘いみたいなのがうまく出て、こんなのを地域では求めているんだと先ほどのような話があって、じゃあできるどころ、全部やれということじゃなくて、できることを何か一緒にやってみましょうよという形での新しい担い手の掘り起こし。それは何か義務とか、義務というかやらなくちゃしょうがないとかというそういうものではなくて、よりよい地域をつくるた

めにみんなで一緒に、ある意味、楽しみながらもやれることですよということ。それで、実はそれは社会貢献ですよということになる。

つながりのところなんかでも同じような形で、特にここは皆さん方福祉関係の人たちが多いので、つながれていない人たちへの意識というのは結構あると思いますので、つながりがなかなか難しい人たちをどうつなぐかというところは、むしろ専門職の人たちが少し知見を入れてもらいながら、住民の皆さんはむしろそういう楽しい場をつくって行って、そこがどうしたらより多くの全ての人たちが参加できる場になるかというあたりは、専門職と一緒に協働して考えていくみたいなことができれば、1つのロールモデルといえますか、こんなふうにやればみんなが参加できるよねということが目に見えるところだと思いますので、どれにしましょうね。どのあたりが何か一番やりやすいのか、効果があるのかというのを少し検討しながら、次年度の目玉になりそうな感じのことも随分出てきましたので、そんなのが進んでいけばいいなというふうに思いますし、これはもう進めなあかんと思っています。

私自身は、何か考えろみたいなところで言ったら、僕はもう本当に地域座談会にずっと取り組んでいるんですけど、かなり重い感じになっちゃっているんで、もう少し軽い感じの地域座談会というか、それこそいろんな人たちが集うような、さっきの何とかサミットで言ったら地域サミットみたいな感じで、誰でも参加できる地域サミット、みんな自由に意見を言って、そこに専門職も来るよみたいなやつを、できれば年に1回ぐらいそれぞれの地域ぐらいでやるぐらいの、そういう軽さと楽しさで、つながりと担い手を新しく開発していくと。それを専門職と区が応援するみたいな、そんな感じぐらいのフットワークをつくってもいいのかなというのは個人的には思っていますので、あくまでもさっきのところという「つながり・みまもり・支えあいシステム」なんかがうまく起動するようなイメージを皆さんと共有できれば、本当に効果的な方向になると思います。

あとは区がどれだけ本気度を出すかという期待でわくわくしておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

【西田委員長】 本日は、「地域福祉ビジョンVer. 3.0」の重点的に取り組むべきこととして、「担い手不足の解消」と「ゆるやかなつながりづくり」の効果的な取組みについて皆さん方からご議論いただきましたので、今日の議論を踏まえて、来年度からできることを、実施案を具体化していきたいなというふうに思いますので、引き続きよろしくお願ひしま

す。

それでは、そろそろ終了の予定になりましたので、区長のほうから本日の会議について一言お願いいたします。

【橘区長】 長時間にわたりまして、委員の皆様からたくさんのご意見、貴重なご意見本当にありがとうございました。そして、小野先生からもアドバイス、たくさん頂戴して本当にありがとうございます。

本当に具体的な幾つかのご意見をいただきました。当区としましても、具体的な取組みというのを皆さんにまたお示しをさせていただきながら、そこにちょっといろいろと肉づけもしていただきながら、着手できるところからはしたいというふうには思っております。

やはり僕も常日頃といいますか、区に来たのはこの4月からですがけれども、これまでの福祉行政は携わってはきておりません。実際にシステムのこの表が何を意味するのというのがなかなか頭に、いまだにしっかり説明、この概要を説明してくださいと委員の皆様から言われたとしても、僕はよう説明できないんですね。

委員長もおっしゃいましたように、それぞれの矢印のこの連携の意味たるものは何か、そういうところ辺をもうちょっと、この中でもしっかりと認識する必要があるかなというふうにも思っております。ですから、いろんなまず、資料4についてのお示ししましたこのシステムのことについても、もう一度今日もご意見いただいていますので、まずそういうところ辺の整理はさせていただきたいというふうにも思いますし、議事のほうについても、担い手不足、ゆるやかなつながり、どういうふうに持っていくか。

小野先生がおっしゃいましたですけども、2つの課題というのですが、方向性は一緒だよねと。あくまで地域福祉の向上に資するには、専門職あるいは区がどのように関与していくのかといった考え方の下、そして、皆さんから具体的な意見もいただきましたので、それをどのような取組みとして出していくのかというのが僕たちの与えられた使命かなと、今日の課題に対して対応していることかなと思いますけれども、一番その中でも、すみません。

いろんな意見を頂戴したんですけども、宮川委員がおっしゃいました、場所はおっしゃいませんでしたけども、大阪南のほうでのだんじり、確かに、だんじりかなとは思っていますけれども、それに対してもだんじりが全てで、地方に行っている若手の子らも全部その日は帰ってくるというような、それを中心に回っている。確かに住吉にはそういうイ

ベントはないですけれども、何かそういう仕掛け、いろんな仕掛け、皆さんからご提案もいただきました。そういったところら辺も含めて、何か「担い手不足の解消」につながる、まずは第一歩というのでしょうか、そういったところらをしっかりと、今日のご意見を踏まえながら次回お示しできればなというふうに思いますので、引き続き皆様のお力添え、あるいはいろんなご意見を頂戴できればというふうに思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

本日は、長時間ありがとうございました。お世話になりました。

【西田委員長】 本日の議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございます。

本日の内容につきましては、事務局のほうで取りまとめていただいて区政会議のほうへと報告を行っていただきたいと思います。

それでは、今後のスケジュールについて事務局からお願いします。

【南保健福祉課長代理】 西田委員長、ありがとうございます。

今後のスケジュールについてお伝えします。次第にも書かせていただいておりますが、次の第3回を令和7年2月6日木曜日午後6時からを予定しております。事務局よりご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日は大変お忙しい中、ご出席を賜り、誠にありがとうございました。

以上で地域福祉専門会議を終了させていただきます。どうもお疲れさまでした。

— 了 —